

矢田丘陵

大和民族博物館・金剛山寺(矢田寺)
矢田寺遍路道・追分・子供の森・靈山寺



Photobyy Kayoko Maeda









迎え地蔵







見送り地蔵









矢田寺八十八ヶ所へんろ道

矢田寺八十八ヶ所へんろ道は、大正十四年に篤信者・大阪接待講を中心に他力講、延命講、いろは講、信心講の発願により本堂裏の地藏山（総延長・約三キロ）に開設されました。

石仏は各札所の本尊様を模して彫刻され、その下にはその寺院のお砂が納められております。

開創法要は高野山の泉智等管長院下のご来山を仰ぎ厳修され、八十八ヶ所霊場の山道を駕籠に乗って石仏の開眼供養を行っていただいたと伝えられています。

その後、へんろ道は各地からのお大師様を慕う人々で大いに賑わいました。

時は移り昭和の戦中、戦後の混乱期を経て台風被害、松食い虫による松枯れ、雑木や竹林の繁茂等が重なりへんろ道は荒廃して行きました。

平成十五年春に矢田地蔵講（三橋清秀講元）による地藏山の竹林の伐採作業が開始されました。平成十七年九月には「矢田寺へんろ道保存会」（山下正樹会長）が結成され、矢田地蔵講はしめ多くのボランティアの方々のご支援とご協力を得て毎年復旧作業が続けられており、山頂近くには休憩所「じゅっぶく小屋」も再建することが出来ました。

竹林の跡には三橋講元の寄進で紅葉の苗木二千本も植えられるなど参道の整備も進んでおります。

巡拝者のために寺院名板（木製）が地藏講の藤木正義氏から寄進され喜ばれていましたが、歳月を経て朽ちて読みづらい箇所も見受けられるようになっていました。このたび大阪市の三科仁孝様と八尾市の三島政夫様によりステンレス製の寺院名板を奉納いただくことになり、矢田寺へんろ道保存会の皆様の奉仕によって設置されました。

平成二十五年十月吉祥日記す





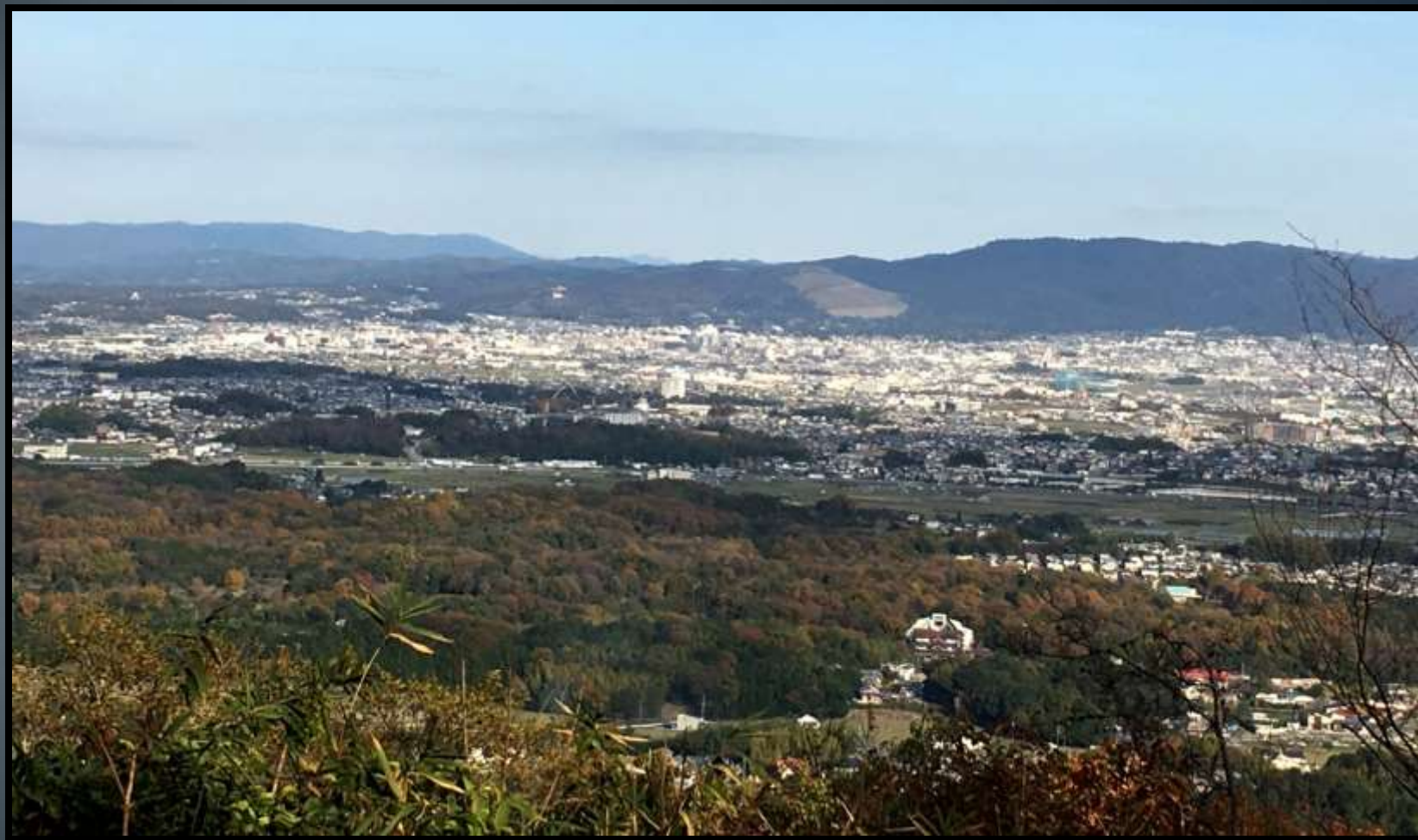
弘法
大師

八十八ヶ所
霊場参詣道









若草山臨む







生駒山臨む









こどもの森







